

# きらめき通信 Vol.30

みなさんこんにちは、今年も残すところ一ヶ月あまりとなりました。

最近では、九州大学病院きらめきプロジェクトの取り組みを参考にしたいと、他大学より視察に来られることが多くなりました。私共の活動が広く周知されるようになったということで非常に励みになります。

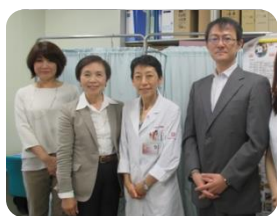
10月20日には、山口大学医学部附属病院 医療人キャリア支援室より視察に来られました。

山口大学医学部附属病院においては、今年度より病院内に医療人キャリア支援室を開設されたばかりで、活動を進めるにあたりきらめきプロジェクトの施設見学調査をしたいという趣意により実現しました。

当病院からは、事務部戦略企画課からも参加いただき、和やかな雰囲気の中で質疑応答がなされました。

当プロジェクトとしても学ぶことが多く、非常に有意義な時間となりました。

これからも、他大学との連携を更に深めていきたいです。



九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター  
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL/FAX: 092-642-5203

2015年11月(隔月発行予定)

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師1名・歯科医師1名）を紹介します。

# Merry Christmas

## 自己紹介

私は卒後10年目の産婦人科医です。小児科医の夫と息子(1歳7か月)の3人家族です。お腹には新たな命が宿っており、来年には4人家族になります。

## きらめきプロジェクトに応募するまで

医師5年目までは大学病院や医局の関連病院で勤務していました。医師6年目に産婦人科専門医を取得し、臨床大学院へ進学しました。大学院3年目で医学博士号を取得でき、同時期に第1子を妊娠しました。医局の計らいで、大学院4年目の年を1年間、育児休暇として過ごすことができました。

そして、今年度から復帰しましたが、双方の両親はそれぞれ自分の仕事を持っており、また遠方であるため援助は難しく、産婦人科医としてのフルでの復帰は困難な状況でした。そんな時、医局からきらめきプロジェクトのことを聞き、応募することにしました。

## きらめきプロジェクトに所属してから

大学では週1回、周産期外来を担当しています。その他の日はクリニックでの外来手伝いをしています。

働き始めてからの数か月は毎週のように息子が熱を出し、下痢をし、保育園に行けない日々が続きましたが、病児保育に預けたり、同僚に勤務を代わってもらったり、周囲の力を借りてなんとか乗り切りました。そんな息子も発熱の頻度が毎週から月1程度になり、だいぶ免疫力がついてきたようです。毎日喜んで保育園に通園してくれるので、私としても救われています。

## 最後に

育児のためフルでの勤務は難しく、また産婦人科医としてのキャリアも捨てたくないという私の我儘を通せたのは、きらめきプロジェクトと、医局、同僚、家族の理解とサポートがあってこそだと感謝しています。微力ながら少しずつ恩返しできるよう日々精進していきたいと思います。

## 自己紹介

こんにちは。卒後11年目の矯正歯科医です。同じく矯正歯科医の夫と、5歳・3歳・1歳の3姉妹の5人家族です。きらめきプロジェクトで採用していただくのは2回目になります。

## 今回きらめきプロジェクトに参加するまで

最初のきらめきプロジェクト参加時には、認定医を取得すべく日々診療経験を積みながら申請の準備を整えることができ、長女の産産を機に退職したその年に無事認定医の資格を得ることができました。その後5年の間に、育児をしながら複数の歯科医院に非常勤勤務をしつつ、次女と三女を出産しました。しかしながら、非常勤とはいえ勤務先によっては帰宅が夜の9時や10時になること、3人目が生まれると親に頼るのも難しくなってきたことなどから、働き方を見直す必要に迫られました。また、かねてからの目標である矯正歯科専門での開業をふまえ、口唇口蓋裂患者の矯正歯科治療を学びたいとも考えていました。夕方までの勤務、専門医療の知識や技術の修得、この2つの願望を同時に叶えられる方法はきらめきプロジェクト以外にないと思い立ち、再び応募させていただきました。

## 現在の仕事

希望通り口唇口蓋裂治療チームに加えていただき、外来診療に携わるとともに、研究や学会発表などもさせていただいています。また月に2回ほど、周術期口腔ケアセンターで術前後の患者さんの口腔管理にも関わっています。大学を離れている間に、外来診療システムが大幅に変化し戸惑うことも多く、また短時間勤務の後ろめたさから周囲の医局員へ気を遣い、帰宅後は3人の子育てに追われ、4月5月は心身ともに疲弊していました。しかしながら『そろそろ(終業の)時間じゃないですか?後はやっておきますよ。』『ありがとうございます。助かりました。』など、日々温かい言葉や気遣いをいただき、今は心から楽しく仕事をさせていただいています。

## 最後に

残念ながら、学外ではいまだに『きらめきは女性だけだからあまり好きじゃないんだよね』という声を耳にします。これは、男性も応募資格が与えられたことで解決するという単純なものではなく、きっと他にも不公平感を感じている人はいるのかもしれませんが、きらめきが優遇されていると感じさせるのも、それを払拭するのも、私たち次第だと思っています。恵まれた環境に甘んじるのではなく、それに見合った成果が出せるよう、日々邁進していきたいと思っています。



# 第6回学生交流会が 開催されました



11月30日(月)に『九州大学病院きらめきプロジェクト第6回学生交流会』が開催されました。学生交流会では、毎回様々な分野の方々をお招きし、学生や医師に向けてのエールや自己啓発を促すための講演をしていただいております。

今回は、精力的に大学教育改革を行われており、またメディア等でも活躍中の福岡女子大学国際文理学部准教授 和栗百恵先生をお招きしました。ご自身の多彩な「匍匐前進キャリア」について、また学生や医師に向けて、今後のキャリア形成やライフプランの立て方について考えるきっかけとなる話をしていただきました。

参加者は皆和栗先生の魅力にひき込まれ、パワーをいただき、始終笑顔の絶えない会となりました。

お忙しい中遠くから参加していただいた皆様、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



前々病院長 水田 祥代 先生



馬出吹奏楽部の皆さん